

追加情報：Dolby Atmos[®] について

本機は最新のサラウンドフォーマット Dolby Atmos（ドルビーアトモス）に対応しました。Dolby Atmos コンテンツの再生によって、頭上を含めてあらゆる方向からリアルな音を感じることができ、驚くほど鮮明で迫力があり、精密で奥行きのある本物の感覚をホームシアターで体験できます。また、Dolby Atmos ではない従来のコンテンツに対しても頭上を含めた位置の音響空間を創り出す Dolby Surround にも対応しました。

Dolby Atmos コンテンツを最大限にお楽しみいただくために、以下の手順でスピーカー設置および設定を行なってください。



・ カッコ内のページ番号は RX-A3040/RX-A2040 取扱説明書のページを示します。必要に応じて該当ページをご覧ください。

スピーカー設置・設定および再生手順

① スピーカーの設置

本機で Dolby Atmos コンテンツを再生するには、以下のいずれかのスピーカーシステムをご利用ください。標準的な 5.1ch または 7.1ch のスピーカーシステムに加えて、プレゼンススピーカーを 2 本（前方 1 組）または 4 本（前方 1 組、後方 1 組）設置することをおすすめします。

スピーカーの種類	略称	スピーカーシステム（チャンネル数）(*1)				
		7.1	5.1.2	7.1.2	5.1.4	7.1.4 (*2)
フロント（左 / 右）	FL FR	●	●	●	●	●
センター	C	●	●	●	●	●
サラウンド（左 / 右）	SL SR	●	●	●	●	●
サラウンドバック（左 / 右）	SBL SBR	●		●		●
フロントプレゼンス（左 / 右）	FPL FPR		●	●	●	●
リアプレゼンス（左 / 右）	RPL RPR				●	●
サブウーファー (*3)	SW	●	●	●	●	●

*1（チャンネル数の表記について）例えば、「5.1.2」は従来の 5.1 チャンネルに加え、上方のスピーカー用チャンネルが 2 チャンネル分存在することを表します。

*2 RX-A3040 のみ対応。外部パワーアンプによる拡張が必要です（30 ページ）。

*3 サブウーファーの数は任意です（最大 2 台）。

□ プレゼンススピーカーの配置

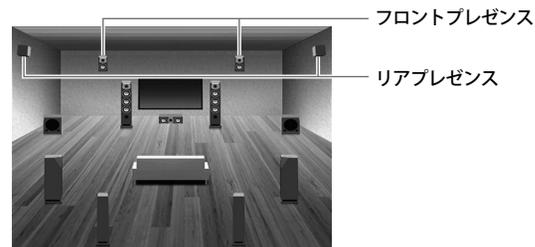
プレゼンススピーカーの配置方法は 3 種類あります（フロントハイト / リアハイト、オーバーヘッド、ドルビーイネーブルド SP）。視聴環境に合わせていずれかをお選びください。



- ・ どの配置方法でも Dolby Atmos およびシネマ DSP HD³/シネマ DSP 3D をお楽しみいただけます。
- ・ 配置方法はフロントプレゼンス、リアプレゼンスそれぞれ個別に設定できます。

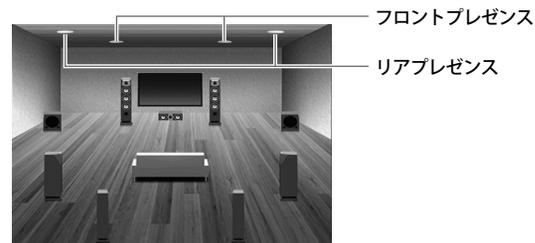
フロントハイト / リアハイト

部屋の前方 / 後方の壁にプレゼンススピーカーを設置します。上下左右の空間のつながり感と広がり感を効果的に再現します。



オーバーヘッド

視聴位置上部の天井にプレゼンススピーカーを設置します。上部からのリアルな効果音や前後のつながりを効果的に再現します。

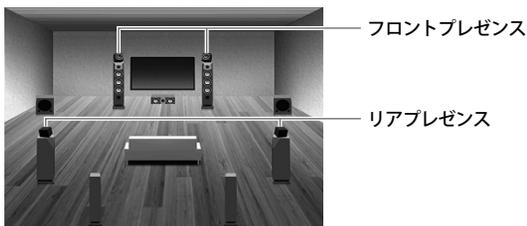


- ・ 天井の取り付け位置については「天井に設置する際のご注意」をご覧ください。

ドルビーイネーブルド SP

ドルビーイネーブルドスピーカー（Dolby Enabled Speaker）をプレゼンススピーカーとして使用します。

天井の反射を利用し、床置きのみで上方スピーカーを再現できます。



- ドルビーイネーブルドスピーカーはフロント、サラウンド、サラウンドバックスピーカーいずれかの上部またはすぐそばに配置してください。（1本のスピーカーにドルビーイネーブルドスピーカーが組み込まれている場合もあります。）詳しくはドルビーイネーブルドスピーカーの取扱説明書をご覧ください。

②スピーカーの接続

プレゼンススピーカーを2本使用する場合は、本機の F.PRESENCE（EXTRA SP1）スピーカー端子に接続します。4本使用する場合は、前方のプレゼンススピーカーを F.PRESENCE（EXTRA SP1）スピーカー端子、後方のプレゼンススピーカーを R.PRESENCE（EXTRA SP2）スピーカー端子に接続します。

□ 必要な設定

本機の設定メニュー（116ページ）で以下の設定を行います。

- 1 リモコンの ON SCREEN キーを押す。
- 2 「設定」→「スピーカー設定」→「手動設定」→「構成」（121ページ）を選び、「フロントプレゼンス」を「大」または「小」に設定する。後方のプレゼンススピーカーを使用する場合は、「リアプレゼンス」も「大」または「小」に設定する。



- YPAOにより自動的に調節されるため、「大」と「小」のどちらを選んでも構いません。

- 3 「配置」（123ページ）を選び、「サラウンド」が「後方」に設定されていることを確認する。



- サラウンドスピーカーを前方に配置するバーチャルシネマフロントは Dolby Atmos コンテンツの再生に対応していません。

- 4 「フロントプレゼンス」で使用するプレゼンススピーカーの配置を設定する。後方のプレゼンススピーカーを使用する場合は、「リアプレゼンス」も設定する。



- ドルビーイネーブルドスピーカーをご使用になる場合は、必ず YPAO 実行前に「ドルビーイネーブルド SP」に設定してください。

③スピーカー設定の自動調整（YPAO）

取扱説明書（48ページ）にしたがって YPAO を実行してください。

④再生

Dolby Atmos コンテンツを再生します。

- 1 リモコンの SUR.DECODE キーを繰り返し押し（70ページ）、サラウンドデコーダーとして「Surround」を選ぶ。
- 2 ビデオ機器で Dolby Atmos コンテンツを再生する。



- Dolby Atmos デコーダーが動作していることを確認するには、前面ディスプレイ（Audio Decoder）またはテレビ画面のステータス情報の表示をご覧ください（103ページ）。

以上で完了です。Dolby Atmos コンテンツの再生を存分にお楽しみください。

設定メニューについて

Dolby Atmos 対応に伴い、以下の設定項目を追加しました。

- ・ サラウンドデコーダー（74 ページ）およびサラウンドプログラムメニューの「デコーダー選択」（114 ページ）に Dolby Surround デコーダー（ Surround/ サラウンド）を追加しました。
Dolby Atmos コンテンツ再生時や Dolby Surround による拡張再生時に選択してください。



- ・ 「デコーダー選択」で「 サラウンド」を選ぶと、「センタースプレッド」を設定できます。Dolby Surround デコーダーで 2 チャンネルソース再生時にセンターからの音声を強く感じる場合は「オン」にしてください。センター信号を左右に振り分けて再生します。
- ・ スピーカー設定メニューの「配置（フロントプレゼンス / リアプレゼンス）」（123 ページ）に「ドルビーイネーブルド SP」を追加しました。
ドルビーイネーブルドスピーカーをプレゼンススピーカーとして使用する場合に選択してください。

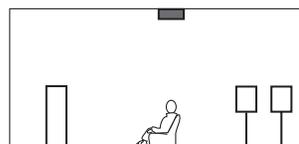
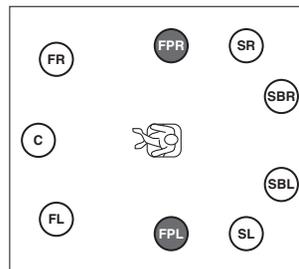
補足

- ・ Dolby Surround デコーダー選択時は、バーチャルシネマフロント（73 ページ）などのバーチャル処理や、YPAO ボリューム（105 ページ）、ミュージックエンハンサー（75 ページ）などの機能は動作しません。また、HDMI OUT 端子や ZONE OUT 端子からは音声が出力されません。
- ・ 以下の場合は、Dolby Atmos コンテンツであっても、Dolby TrueHD、Dolby Digital Plus、マルチチャンネル PCM のいずれかのフォーマットで再生されます。
 - 音場プログラムや Dolby Surround デコーダー以外のサラウンドデコーダーを選択している。
 - サラウンドバックとプレゼンススピーカーのいずれも使用していない。
 - ヘッドホンを接続している（2 チャンネル再生になります）。
- ・ サラウンドバックスピーカーが 1 本のシステムで、Dolby Surround デコーダーを選択した場合、サラウンドバックスピーカーから音声が出力されません（Dolby Atmos コンテンツ再生時を除く）。

天井に設置する際のご注意

プレゼンススピーカーを天井に設置する場合は、以下の図を参考に取り付けてください。

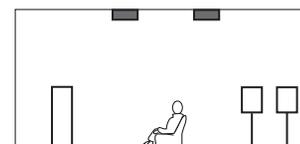
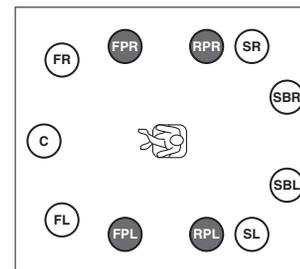
プレゼンススピーカー 2本の場合



取り付け位置

視聴位置の上部、または視聴位置とフロントスピーカーの間の天井

プレゼンススピーカー 4本の場合



取り付け位置

フロントプレゼンススピーカー：
視聴位置とフロントスピーカーの間の天井
リアプレゼンススピーカー：
視聴位置とサラウンドスピーカー（またはサラウンドバックスピーカー）の間の天井



必ず実行

必ず天井取付に対応したスピーカーをご利用になり、落下防止措置を講じてください。取り付けはご購入店または専門業者に依頼してください。

用語解説

Dolby Atmos

最初に映画館から導入された音響技術で、オブジェクト化された信号を正確かつ自由に定位または移動させて、3次元的な音響空間を簡単に創り出すことができます。そしてホームシアターにも導入され、画期的なシネマサウンドを家庭でも楽しめるようになりました。視聴者の上方から聞こえる音を活用しているのが大きな特徴です。

Dolby Surround

2～7.1チャンネルのコンテンツを、使用されるスピーカシステムに合わせて拡張することができる次世代のサラウンド技術です。インシーリング・スピーカー（埋め込みスピーカー）やドルビーイネーブルドスピーカーなど、Dolby Atmosの再生に適したシステムはもちろん、従来のスピーカーレイアウトでもDolby Surroundを楽しむことができます。

ドルビーイネーブルドスピーカー（Dolby Enabled Speaker）

天井にスピーカーを設置できない場合に、天井の反射音を利用して上方からのサラウンド感を創り出すドルビー社が開発したスピーカーです。独自のドライバーや信号処理システムを従来のスピーカーに組み込んだり、独立型のスピーカーとして設置したりすることで、従来のスピーカーの長所は生かしつつ、Dolby Atmosコンテンツの再生時に非常にリアルなサラウンド感を創り出すことを可能にしています。

Dolby Atmos ストリーム

Dolby Atmos コンテンツは、Dolby Atmos ストリームを含む Dolby Digital Plus、または Dolby TrueHD フォーマットが収録されたブルーレイディスク、ダウンロードファイル、ストリーミングなどにより、Dolby Atmos 対応 AV レシーバー向けに提供されます。Dolby Atmos ストリームには音の位置に関する情報（メタデータ）が含まれており、Dolby Atmos 対応 AV レシーバーで再生する場合は、その情報に基づいてさまざまなホームシアター環境に最適な音響空間を創り出します。

商標



ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。

Dolby、ドルビー、Dolby Atmos、Dolby Surround、Pro Logic、Surround EX およびダブル D 記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

ブルーレイは Blu-ray Disc Association の商標です。